危い子供の居眠り コタツ使用には心して

コークス七輪ガスが人体におよぼす影響については、前々号で保健課からの調査にもとづく報告でその危険度は十分認識できたものだと思います。なお保健課で各種検定器を用いて化学調査を行つて貰いましたので、さらに認識を深めるためにこの調査の結果を掲げてみましよう。

コークス燃焼ガス中の一酸化炭素炭酸ガス測定成績について

宮原社宅内某氏宅六畳の間において上記ガスの測定を行い下期の成績を得た。測定計器は一酸化炭素＝北川式ガス検知管、炭酸ガス＝理研ガス検定器を使用した。

實驗成績

九時二十分に七輪にコークスを入れ火をつけ九時三十二分六畳の間に七輪を入れ同時に室を閉め切り九時三十二分―十時、十時三十分十一時の計四回。一酸化炭素（以下COとす）炭酸ガス（以下CO_2とす）室温などの計測を行つた

七輪の大きさは内径十五センチメートル、高さ十四センチメートルの円形の七輪である。

室の大きさは六畳、天井の高さ九尺である。

測定時間（時 分）	測定位置	CO（%）	CO_2（%）	備考
9，20	室中央	検出不能	検出不能	室温11°C
9，32	七輪直上	0，002	1，5	室温14°C
〃	口元	0，0006	0，2	
〃	室中央	0，002	0，5	
10，00	直上	0，002	0，9	室温18°C（火力最強）
〃	口元	0，001	0，2	
〃	室中央	0，00002	0，5	
10，30	直上	0，01	3，3	室温21°C（火力最強）
〃	口元	痕跡	0，02	
〃	室中央	痕跡	0，03	
11，00	直上	0，002	0，8	室温22°C 火力衰う
	口元	痕跡	0，5	
	室中央	痕跡	0，8	

結論

1、コークス燃焼中の一酸化炭素発生量は七輪直上において一時間後に最も多く〇、〇一%となり、以後火力衰えるにつれて痕跡程度となる。

2、CO発生量は初期にやや多いが何れも衛生学上の恕限度以下である。

3、CO_2発生量は七輪直上において一時間後に最も多く三、三%であるが、何れも恕限度以下である。

しかしとくに注意を要することは前回に述べた。換気をよくすることと、若しコタツに用いる場合とくに子供等の居眠りが危い。

「大東映画」発足 今井、山本、家城が重役

独立映画株式会社が製作をやめ惜しまれていたが、新たに独立映画の伝統をうけて大東映画株式会社（社長 角正太郎氏）が資本金一千万円で発足した。新会社には今井正、山本薩夫、家城巳代治の三監督も重役に就任、来春二月今井正監督第一回作品にとりかかる。つづいて山本監督「おとり」も撮入する。

音楽鑑賞会

三池炭鉱の第六回音楽鑑賞会は去る十日、北村維章指揮の東京シンフォニツク・タンゴ・オーケストラとシャンソン歌手芦野宏をまねいて大牟田市民会館で午後二時半と六時半からの二回にわたつてひらかれた。

同オーケストラは大牟田では三度目、芦野宏も二度目の公演、いずれもわが国音楽界の第一線クラスだけにこの日も好評であつた。

「ジエラシー」「バラ色の人生」「夢のタンゴ」など十数曲が演奏されたほか芦野宏も映画主題歌などなつかしいシャンソンを歌いまくつた。

映画紹介 続々「大番」

昭和十三年の初秋、六十五万円の借金を背負い、後楯の木谷さんを失つた丑之助は、おまきさんの情を振切つて、故郷で百姓仕事をやるべく車上の人となる。故郷では丁度、丑之助が生き仏と崇める可奈子が婿殿ともども初の里帰りとあつて、村をあげて出迎えの真最中であつた。丑之助は満座の中で、可奈子夫婦と友達のように話し合つて、大いに村人の尊敬を受けたが、その手前、百姓仕事はできなくなつた。

森家の主人から、里帰りのおどりもち役を依頼されたのを機に、森家の持船を一艘借り受けた。紋付袴のおどりもち役は、可奈子のひざへ酒をこぼしたりしてさんざんであつたが、金儲けの計画は着々と進行した。森家の番頭山田も一枚加つて、第一回は無事に出航した。丑之助は稲荷のうちから、イリコ一袋を、おまきさんに送ることを忘れなかつた。

そのおまきさんから電報があり、奈良まできたついでに大阪へ寄るとのことであるが、電報を手にした夜、「亀屋」の座敷で呼んだ女が、今は竹千代と名をかえた梅香であつた。身をひかせて東京の旅館に世話してやつたにも拘らず、板前の男と逃げ出した恩知らずではあるが、久しぶりで会つてみると可愛いさの方が勝つて、一夜を共にした。

（18日より太陽館で）

どうわ 王さまになつたサル

島野とおる

どうぶつ村では一年にいちど、月のあかるいばんに、おどり大会をするならわしがありました。このおどり大会でいちばんにえらばれたけものは、その日から一年のあいだ、王さまになることができます。ですからけものたちは、こぞつてこの大会にでておどりました。その年は、サルのおどりがみんなの気にいつたものですから、サルは王さまにえらばれることになりました。

王さまになつたサルは、ひとつ城をつくろうと、キツネにそうだんをしました。

キツネはかしこまつて

「北がよろしいでしよう」

とこたえました。

サルとキツネは、さつそく城をたてる土地をさがしに、たびにでました。

そのみちみちサルは、じぶんのえらいことをキツネに知らせようと話かけました。あるばしよまでくると、サルはあたりを見まわして、おおげさにためいきをつきました。キツネはそのわけをききました。するとサルは、たくさんのはかいしをゆびさして、いいました。

「わたしのせんぞがつかつていたどれいたちのはかをみて、なげかずにいられなかつたのだ」

それをきいたキツネは、いいました。

「どんなウソをついても、はかいしは、ものをいいませんからね。この人たちは、ひとりだつてでてきて、王さまがウソをついているとはいいませんから、いくらでもどうぞ」

サルはキツネのことばにむつとしました。

「王さまにむかつて、なんたるしつれいなことを、村からついほうするぞ」

とえばつてみせました。

やがて夕ぐれになりました。キツネは王さまのためにえさをさがしにでかけました。すると森にさしかかるこみちのところに、肉をしこんだわなをみつけました。そこでさつそくキツネは、サルをつれてやつてきました。

「すばらしいごちそうがありますが、王さまのお通りを知つて、けもののだれかがわざわざもつてきたものでしよう。どうぞごじぶんでいつておとりください」

キツネはいいました。

腹をすかしていたサルは、りよう手でとろうとして、たちまちわなにかかつてしまいました。

「このふとどきものめ、王さまのわしをだましたからには、なんとあつてもついほうする」

とサルはまつかになつてキツネをしかりつけました。

するとキツネは、かしこまつていいました。

「サルさんよ、あなたはそのくらいのちえしかもつていないのですか。それでどうぶつ村の王さまになるなど、身のほど知らずというものです」

そのときとおくから、かりうどの足おとがきこえてきました。

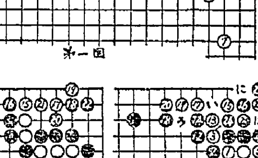
「考えもなくものごとをすると、そんなめにあうのです」といつてキツネは一目さんにかけさりました。サルはようやく目がさめてキイ、キイ泣いて助けを求めましたが、もうあとのまつりでした。

× × ×

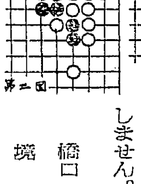
囲碁教室（37） 両隅に自己の勢力のある場合の中央も亦大場

第一図、右上隅にツケノビ定石が打たれて白7とヒライた時この隅だけではいにトンで守つておくのが定石ですが、左上隅に黒の配石のある場合、黒8と星下の大場を占めるのが、釣合上よい手です。これをろやはにヒラクのは感心しません。前回は彼我相対峙（ヒガアイタイジ）した場合でしたが、そのアイタイジした相手の石を、自分の石に置かえたのが本図のような場合で、やはりその中央が大場となります。黒いの備えを省いたとき、白に黒ほ白への出切りが一寸こわいようですが、受方さえ間違えなければ結果は白の失敗に帰します。即ち

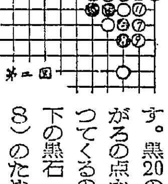
第二図、白1、3の出切りには黒4のサガリが大切です。次の白5が黒を紛らわして術中に陥れようという手ですが、以下14まで必然の応接です。白15でいに下るのは、第三図のように黒16と押えて以下22まで黒勝ちです。白15なら黒16とツケるのがまた大切な手で、これで17に下ると、次に白23、黒は、白21黒24、白い、黒16、白にとコウに受けられて、黒のハマリです。黒16で17に下るのは、白5で8にカケツイだ時には差支えないのですが、ここでは16に受けなければなりません。以下黒24で白の両アタリとなつて白の敗です。黒20の次に白がろの点から出切つてくるのは、星下の黒石（前図黒8）のために成立しません。



第一図



第三図



第二図

橋口 初義

境 徹一

＝書評＝ 活動を克明にたどる 齊藤一郎著『総評史』

この本は、結成いらい八年の総評の活動のあとを克明にたどるとともに、たとえば片山内閣がおしつけた〃ベース賃金〃がてつていした独占支配の賃金方式であると看板し、その後の総評の賃金闘争を再評価しようとしていることなど「総評論」でもある。

総評をめぐるたたかいや論争が克明に検討されていることは、現在の労働の方向をみいだしていくうえでも、大変参考になる。齊藤氏は〃あくのつよい〃評論家といわれ、不当に過小に評価されている面もある。

しかし、まえがきで、総評の歴史を「総評機関の〃たえまのない原則からの逸脱〃と、これを大衆路線にひきもどそうとする労働者との対立抗争の歴史」と断じているように、主観的であるのも事実である。指導者も、労働者自身も、それぞれ敵との血みどろの闘争を通じてのびてきたのだ。労働運動史を労働者の成長の歴史としてみていかないと、齊藤氏が〃労働者の立場〃を目標しながら、十分に教訓をひきだせない結果になる。

戯曲 勤務評定

藤末克己

ある国の代議士控室

丸持「どうやら解散らしいぞ、慾野君選挙地盤は大丈夫かい」

慾野代議士「駄目々々、汚職がたたるし、それに日教組が進出しているので、今度はひやひやしとるんです。丸持さん選挙資金のことは宜しく願います!!」

丸持「日教組にも困つたもんだ、二言目には平和だとか、民主々義だとか、あんな先生に教育された日にはこつちはボロ儲けが出来んわい。どんな商売より、大砲とか軍艦の方がボロイからな……そこでぢや、日教組をやつつけにやならん、良い考えはないかな……」

慾野「文教大臣を呼びましよう、おーい秘書、文教大臣を呼んで来い」

秘書「ハイー」しばらくして文教大臣入つて来る。

文教大臣「何か用ですか」

丸持「今、慾野君と相談していた所だが、日教組が選挙ごとにどんどん出て来る、こいつを何とかせねやいかん、そこで日教組をやつつける工夫はないか…という訳なんだがね」

文教大臣「スト権のない先生方が自分達の要求を解決するのに、議会に代表を送るというのはこれは当り前ですよ、まつたく民主的な議会主義というやつで、奨励こそすれ、やつつけるなど間違いぢやないですか」

慾野「大臣、あんたは頭が堅くていかん、そいつは理想論というもんだよ。こつちは選挙で追いつめられているんだ、喰うか喰われるかだよ、何んとしても叩きつけにやいかん」

丸持「わしらとしても日教組は承知出来んのぢやよ、若しも今のままに教組をしておくなら、君らの政治資金の面倒も見れんわ それともなにかな、誰れか適当に日教組を押え得る者を文教大臣にせんといかんな」

文教大臣「そんな無茶な、政党の選挙とか、資本家の利益のため教育を利用されるのはどうも納得出来ませんわい……だが辞めさせられちや元も子も無くなるよろしい、やりましよう」

丸持 慾野「ぢや、宜しく頼んだよ」

文教大臣声明「……という状態である為、教職員の質の向上、信賞必罰を行う意味に於て勤務評定を実施いたします」

× × ×

評定實施後の ある校長室

教師A「これはまことにつまらんものですが」酒一升出す。

校長「いやいや、君はなかなか要領がイヤ、ナニ、精神が良い、勤務評定では百点組だな。ところでS、とかBとかどうかな、近頃授業には熱が入つとる様だが」

教師A「校長、B先生は校長先生の前では一生懸命だが、陰ではもう滅茶苦茶です。校長をたぬきだと悪口をいつて居ります」

校長「何に……わしをたぬきだとそいつは怪しからん、ウンまつたく怪しからんぞ。どうも一生懸命授業しとると見えたのはわしのみ間違いぢやわ大体B君はわしの家に一ペンも挨拶に来をらん、学校でも頭の下げ方が足らん様な気がする、勤務評定では三十点の落第点ぢや」

× × ×

ある教育長宅

校長「これがわが校の勤務評定です」

教育長「どれ……Bが三十点Sが五十点、六十点四人七十点が五人、八十点以上特進組が二人か君、君、特進組二人は良いがね四十点以下の落第組が一人、五十点組が一人ぢやが書き方が違うよ。君の学校の場合は四十点以下が二人、五十点組が二人なければならんのぢや、こんな評定書は県の方に出せんよ」

校長「なかなかそう悪くばかりもかけませんし」

教育長「それぢや君は処罰されますよ」

校長「それでは直します。七十点のDとMを四十点と五十点に下げます。後は順ぐりに頭から下げると体裁がそろいます」

× × ×

ある校庭

児童A「おれんとこの先生は三十点の落第組だと、父ちやんがいつていたぜ」

児童B「うん、おれんとこの母ちやんも落第先生には教えて貰いたくないてPTAでいうといつていたぜ」

児童C「落第組の先生の教えることと本当だろうか。きつと嘘かも知れんぜ」

児童D「おいお前達、おれ達の先生そんなに悪い先生と思うのか」

児童A「おれ、悪い先生と思つてないけど、みんな大人達は悪い先生ていつているぜ。だから本当は悪い先生かも知れないね」

児童C「本当に悪い先生なら、先生のいうこと信用しない方が良いかも知れんぜ……」

児童F「おい、あつちでA先生とC先生が喧嘩しているぞ。A先生がC先生のことを校長に告げ口したとか大変だぜ……」

児童B「そいつあ面白い、先生だつて喧嘩するんだ。下級生の奴ら近頃生意気だぞ、ブン殴つてやろう」

児童みんな「それが良い、やつつけろ」

―幕―